

## 「しまね文芸フェスタ'21」午前の部 全体会について

20210421 担当部門・島根県詩人連合理事長 洲浜昌三

昨年は、事前に著名講師の承諾を得て順調に進めていましたが、新型コロナ禍で中止になり、準備中の講師には大変失礼な事態になり、担当者としても責任を感じました。

今年度も目下、予測できない状況下にあるため、どんな事態にも臨機応変に詩部門の責任で対応できるような企画を考え、3月11日の運営委員会へ案を提出し承認されました。その後、関係者と話し合っ準備を進め、具体的案を4月26日の運営委員会へ提出し承認されました。以下、その概要をお知らせします。

1. 発表のタイトル:「しまねの風物～詩と映像」

2. 発表者: 大田市演劇サークル劇研「空」・合唱団「マンマ・ヴォーチェ益田」・詩人連合会員

3. 発表の内容:1)しまねの風物を書いた詩(10～12編)の朗読・映像投影

2)コーラス発表「島根県民歌」、組曲「高津川」など・映像投影

3)創作民話朗読『サヒメの大使命～海を越え石見の大地へ』映像付き(劇研「空」)

注(詩の朗読だけつづくとならぬので、合唱、民話朗読とうまく組み合わせて構成する。)

(朗読は劇研「空」で担当するが、作者自身の朗読もある。時間が許せば人麻呂の石見挽歌も朗読)

4. 企画に当って: コロナ禍のため、中止を含め予測できない事態を想定し、詩部門で企画運営する。会合等困難なため、理事長を中心に企画し、大田の劇研「空」と益田の合唱団の協力を得て、個々に練習して発表する。参加者は全県の5部門の関係者と一般参加者なので、共通に楽しめて表現の面白さ豊かさを味わえる舞台発表にするために、島根の風物詩を、プロジェクターで投影しながら発表したい。

近年、参加者が減少傾向にあることも考慮し、フェスタ(祭り)として開催地の団体などとコラボして、フェスタに新たな刺激と活力を与える機会になれば嬉しい。また過去の優れた作品を取りあげ、一般の人たちに知ってもらおう機会にもなれば幸いである。

### 5. 発表団体紹介:

「マンマ・ヴォーチェ益田」は約20名。台湾、中国の公演もあり、2月には45周年記念コンサートをグラントワで開催。団長は廣瀬千代氏。「石見詩人」の栗田好子氏も団員で、今回の運営の現地責任者を願っている。目標ができた喜んで協力して頂いた。組曲「高津川」「県民歌」を20分以内で発表。

劇研「空」は洲浜が代表で発足20年、創作劇と共に、名作や古典、詩の朗読公演も長年つづけている。『サヒメの大使命』は三瓶山の伝承を元にした創作民話で、約40枚の原画の映像を音楽、歌などで構成した20分余の朗読劇。

### 6. 風物詩の選択:

現代詩は自己の内面を象徴的に表現した難解な詩が多い。そのような詩ではなく島根の風物を素材にした詩を、簡単な解説で作者を紹介して作品を朗読。作品は過去に刊行された詩集や「石見詩人」「山陰詩人」「しまねの風物詩」「島根文芸」等から適切な作品を選ぶ。安来～津和野まで対象にするが、地元の益田はできるだけ多く取り上げたい。選択は理事長に一任し、事務局長と相談して決定したい。目下12編選択し検討中。一遍の朗読は2分前後。